

第5回 内守谷地区意見交換会
「新たな地域コミュニティ」の実現に向けて
(令和6年12月7日(土)PM実施)

ワークショップ：地域コミュニティ協議会で活動したい取組みを考えてみましょう

地域コミュニティ協議会 全体の意見

- ・検討会のメンバーは、既存の団体と連携していくことが一番の近道
- ・内守谷地区の既存団体が団結し、0からではなく今あるものを広げていくのが良い
- ・地域コミュニティ協議会は既存団体の役員が主体的に動くのではなく、まちづくりに興味がある人を発掘して無理のない範囲で活動する組織にしていきたい
- ・地域コミュニティ協議会は、市が主導とならず、住民間で話し合っていく場とする
- ・具体性がなく、エネルギーが必要なため困難
- ・働いていると、仕事・家事・育児+コミュニティ協議会の仕事は更に負担になるのでは
- ・既存の団体へ、一斉に声掛けが難しい
- ・どうやって輪を広げていくか⇒豊田地区は核となるメンバーが声掛けしていった

【現状】

- ・現在、既存団体と横のつながりを広げていっているところなので、地域コミュニティの必要性はない
- ・既存の団体には、若い人もいる
- ・内守谷は、地区1回廃品回収がある
- ・子ども祭りは毎年実施しているため、地区ごとの交流は継続されている
- ・団体同士で繋がっているため、すでに地域コミュニティ協議会になっている
- ・地域の絆を深めている途中で、互いに見守り合っている
- ・お年寄りの見守り事業で20年以上おしゃべり会を開催している⇒地域コミュニティの再構築をしている
- ・内守谷地区のみで防災無線を流したことがある⇒行政主導ではなく、住民が課題を出し話し合える場にしていきたい

【課題】

- ・地域への情報発信の仕方
- ・子ども会のメンバーは一機に代わるので、連携が困難かもしれない
- ・高齢者の移動手段の確保
- ・現在の役員の年齢層が高くなっているため、後継者の担い手不足が課題になっている